

<研究名称>

急性期くも膜下出血患者における位相角の臨床意義
-構成概念妥当性および予測妥当性の検討-

<実施責任者および実施担当者>

実施責任者 理学療法士 角井孝多

実施担当者 作業療法士 松本 幸樹、脳神経外科 櫻井寿郎

<研究期間>

倫理委員会承認日 ～ 2026年6月30日までとする

<診療・研究の目的>

くも膜下出血後は全身状態の変化が大きく、機能予後の予測が非常に困難です。そこで本研究では、非侵襲的に測定可能なBIA（生体電気インピーダンス分析）指標の一つである「位相角（Phase Angle：PhA）」に着目しました。PhAは細胞の健全性を反映する指標として注目されていますが、くも膜下出血患者さんにおける臨床的意義はまだ十分に解明されていません。本研究では、以下の2点を検証することを目的としています。構成概念妥当性：術後早期のPhAが、炎症（CRP）や栄養（GNRI）、骨格筋量などの全身状態をどの程度反映しているか。予測妥当性：早期のPhAが、退院時のADL（Barthel Index）や歩行能力（FAC）の予測指標になり得るか。

<実施内容（方法）>

本研究は、これまで当院に入院されたくも膜下出血後の患者さんの診療録（カルテ）情報を用いて行う後ろ向き観察研究です。

<対象となる方>

2023年1月～2026年3月の間に当院に入院したくも膜下出血後の患者さん
※この研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。

<危険性（副作用）等>

本研究は、すでに行われた診療の情報を使用するものであり、新たな検査や治療は行いません。そのため、患者さんに新たな負担や危険はありません。

<倫理上問題になると考えられる事項>

本研究では、個人情報を厳重に守ります。お名前や患者番号など、個人が特定できる情報は削除します。データは匿名化したうえで解析します。研究成果を学会や論文で発表する場合も、個人が特定されることはありません。

<予定対象数>

100 例

<研究への参加について>

本研究では、既存の診療情報を用いる後ろ向き観察研究であり、患者さんへの侵襲や介入はありません。そのため、個別に同意（インフォームド・コンセント）はいただいておりません。

なお、本研究への参加は任意です。本研究に参加されない場合でも、診療上の不利益を受けることは一切ありません。

<研究への不参加の申し出（オプトアウト）>

ご自身の情報が本研究に使用されることを希望されない場合は、下記の連絡先までご連絡ください。

お申し出いただいた場合には、該当するデータを研究対象から除外いたします。

<問い合わせ先>

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 リハビリテーション科

理学療法士 角井孝多

TEL : 0166-22-8111

FAX : 0166-24-4648